

Bamboo Bag gen

竹の鞆 げん

浜松市

自然素材を活かした 長く使うモノづくり

所在地 浜松市天竜区春野町川上309
業務内容 地域産の竹を原材料にした鞆
(手持ち鞆・ショルダー等)の製作・販売・修理



概要 取組内容紹介

竹の質感や風合いを大切に、地域の真竹を使った鞆類を手づくりしている。「手と目の届く範囲のモノづくり」にこだわり、竹取り・竹材づくりから製作まで一貫して行い、竹の有効活用の道を拓いている。



環境課題の解決 忘れられていた竹の新たな魅力をかたちに

環境ビジネスとしての注目すべき着眼点

手と目の届く範囲でのモノづくりが、竹の活用につながる。

同工房の鈴木げん氏は、以前はイラストや広告デザインの仕事に就いていた。しかし仕事に追われる多忙な日々には「本当にこの暮らし、仕事が自分に合っているのか?」と疑問を感じるようになった。

そんな時、あるイベントで「なた1本で竹をざるなどに仕上げる」竹かご職人と出会い、人生に対する価値が一変。まずその職人に師事し、さらに竹細工の本場、



大分県別府市で修業を重ねて、2016年に空き家だった春野町の古民家に移住し、工房を創業。「自分が本当に心地よく働ける場所、仕事はこれだ!と気づいてから迷いはなかったです」。

地元の地主さんのご好意で竹を取らせて頂ける環境があり、その近くに居を構えたことで、竹取り・竹材づくりから鞆の製作まで、すべて自分の手と目の届く範囲でできる理想的な仕事環境が実現した。「特に環境保全を意識しているわけではない」と語るが、大切に長く使うことを前提としたモノづくりは環境への負荷が小さく、竹の活用を見直すヒントとなる有意義な取組としても注目されている。

展望

自然素材の素晴らしさに価値を見出す人を増やす

同工房の竹の鞆は、すべての製作工程に手間がかかるため、コストパフォーマンスやスピードを求める現代社会の一般的な価値観とは相反している。それでも、「実際に製品を手にした人が、自然素材の風合いや大切に長く使うということに価値を見出してくれればいい。その価値の普及に力を注いでいきます」と鈴木氏は語る。現在はジビエ鹿革や遠州木綿など地元産のさまざまな自然素材とのコラボレーションにも取組んでいる。

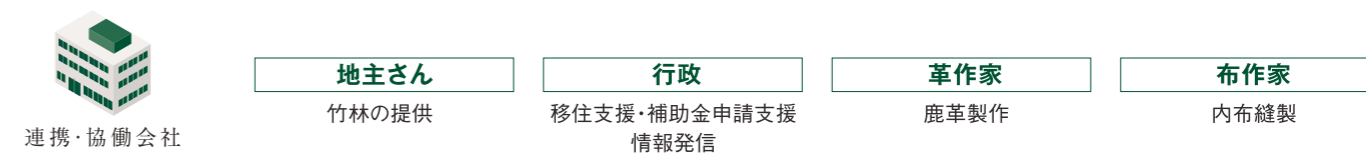
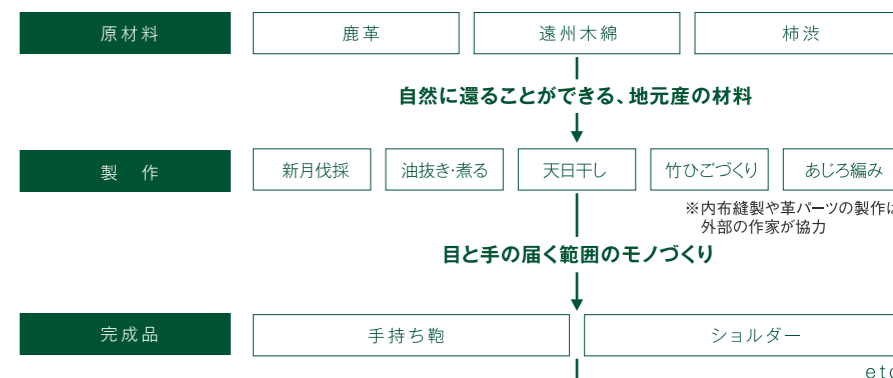
背景・地域課題 昔ながらの価値観を見直す

竹は元来、タケノコ生産のために日本に広く植えられたが、生活環境の変化や安価な商品の輸入により、放置竹林が増加するとともに、山間部の過疎化が進み管理の手が行き届かなくなった。しかし、製作に利用できる竹がなくなったわけではない。鈴木氏は自ら竹を選び、取り、竹材づくり、製品の製作・加工を行っている。



具体的な取組内容 地域発の自然に還る材料にこだわる

竹取りから竹材づくり、製作、販売、修理を全て鈴木氏が行う。生えてから3年程度の条件に合った竹のみを使用する。竹に色を出す染料も科学染料を使用せず、国産の柿渋で染色する。また、持ち手などに使用するジビエ鹿革は、自然由来のアイテムを用いて製作されたものを使用している。さらに、販売は展示会等における直接対面のみ限定しており、製品の良さと鈴木氏の考えに共感する方に販売することとしている。(現在はご注文いただいた方だけの販売となっている)



今後の活動 時間や生活に対する価値観の変化を願いつつ、次世代へ

私の鞆づくりは手がかかります。竹取りや竹材づくりのための山仕事もあり、製作できる鞆は年に40が限度でしょうか。オーダーメイドとなると、何年待ちか分からない状態です。弟子をとってもむしろ負担は増大する。手仕事の悩ましいところです。

将来は弟子をとって技術を継承したいと考えたこともありましたが、それには世の中の価値観と作り手の環境が整っていなければなりません。

今では贅沢とさえ思われる竹製品ですが、昔は当たり前が存在でした。時間をかけてものをつくり、直しながら丁寧に使い生活をする。私の竹仕事を通じて、そんな生き方に価値を感じる人が少しでも増えてくれたらいいなと願っています。

竹の鞆 げん 代表 鈴木 げん

